

「実践事例集Vol.15」(2018年4月発行)で
紹介している事例を中心に抜粋しています。

(公益財団法人 ソニー教育財団)

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育 保育実践事例サイト
<http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>

実践事例集

<http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/practice/>

2017年度 ソニー幼児教育支援プログラム

「科学する心」を育てる

～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

つなげよう！科学する心

～「科学する心」から育まれた力を、

育ちと学びにつなぐ～



南陽市立赤湯幼稚園

「科学する心」を育てる

～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

つなげよう！科学する心

～「科学する心」から育まれた力を、育ちと学びにつなぐ～

I はじめに

① 研究にあたって

本園では遊びの中で子ども達を感じる「そうだ！」「どうして？」「こうしよう！」「やってみよう！」の心を保育者がキャッチし、実現に向けて試行錯誤する姿や子どもの見えない心、言葉に寄り添いながら、援助や環境を構成し保育を実践することに努めている。

さらに今年度、「科学する心とは・・・」を改めて職員で振り返り、科学する心、科学する心の芽生えを、「物事への関心を持つこと（出会い）」「わくわくドキドキ、やってみよう！とする気持ち」と考えた。

3年前、「科学する心」を育てることに出会い、遊びの継続や、保護者・地域とつながることから見えてきた課題を、さらに様々な成果につなげるため、保育者の感性を高め、「科学する心」を探っていきたいと考える。

② 研究テーマ設定の理由

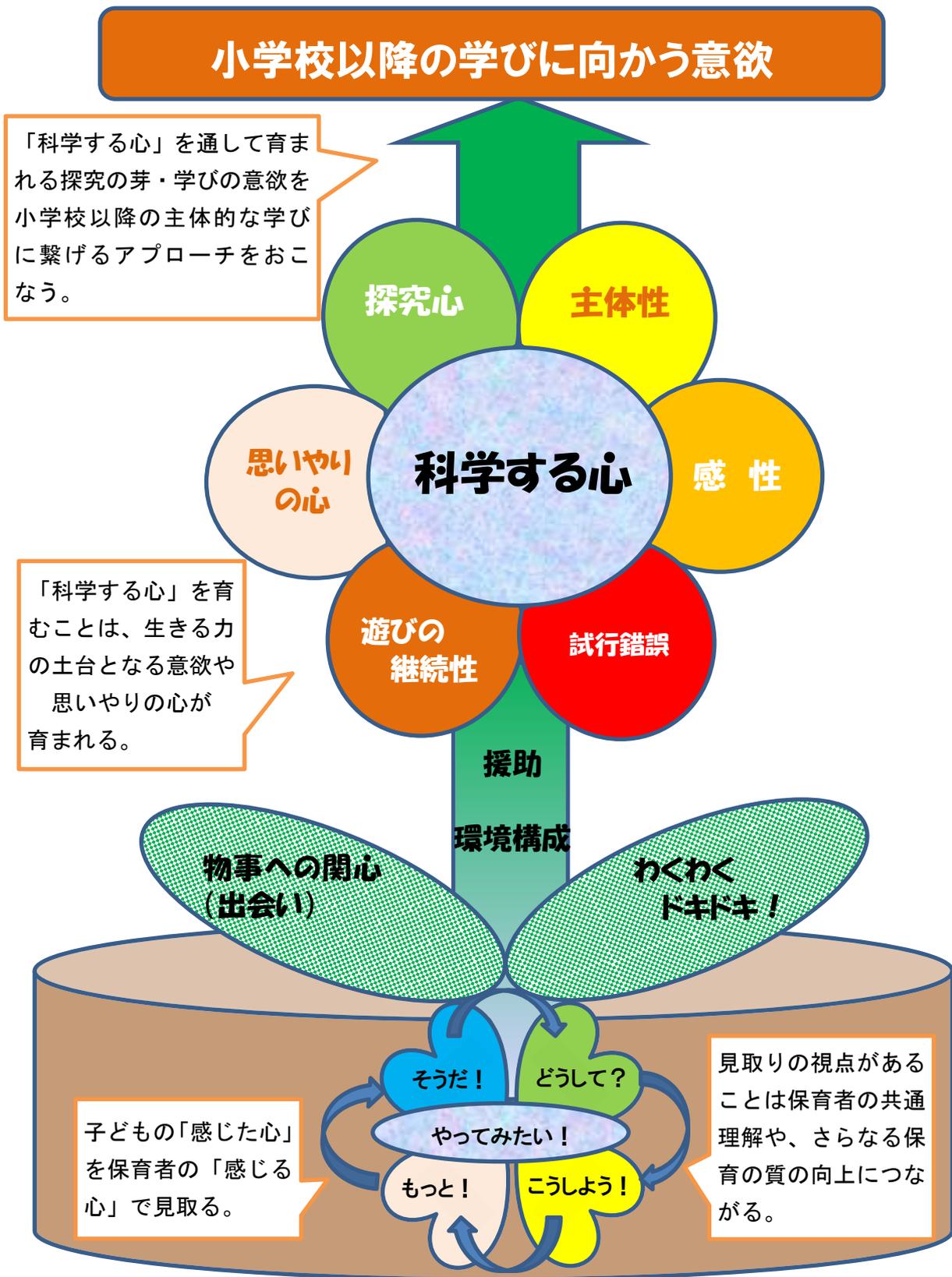
園での生活や遊びから育まれる育ちと学びを、3歳児から5歳児へ、また、育まれた力を小学校以降の学びにつなぐことに迫るため、「育ちと学びをつなぐ」をテーマにした研修は2年目となる。「科学する心」を通して育まれた幼児期の「見方や考え方」について、より深く見取り、探っていきたいと考える。

遊びの見取りから、「科学する心」を育む援助や環境構成を考え、保育者も一緒にわくわくドキドキ・やってみよう！の心で実践する。遊びや生活の中で出会う「物事への関心（出会い）」から「科学する心」が生まれ、その後の学びにつながることを探っていききたい。

③ 研究の方法

- ① 遊びを見取る視点を職員で共通理解し、子どもの言葉や実態から援助や環境構成について考える。遊びを年齢や年度を越えてつなぐことで、「科学する心」が育まれることを探る。
- ② 「物事への関心を持つこと（出会い）」「わくわくドキドキする心」が「科学する心」を育て、主体性や探究心・思いやりの心が育まれることを探る。
- ③ 科学する心から育まれた学びの姿を、小学校へつなげることにアプローチする。

④ 研究の構想図



② 遊びをつなぐ、科学する心をつなぐ

平成29年度 4歳児・5歳児の実践

昨年の5歳児の色水作りを見ていた子ども達。「やってみたい！」という思いが、今年度の4歳児、5歳児の遊びにつながった。

同じ時期にはじまった4歳児、5歳児の色水作り。環境に主体的に関わり、発見や友達と思いを伝え合うことを楽しむ姿や、保育者の援助や環境構成の工夫により育まれた「科学する心」から、年齢による思考の深まりの違いを考察する。

～その1～ 魔法の色水作り！

対象児 平成29年4月～ 4歳児

〈子どもの姿〉 科学する心が育まれている姿を赤字で示す

保育者の ○援助●環境構成☆気づき

【一日目】 「色水やりた～い！」

「前のいちご組でやってたの（紙テープを入れて色水作ってたの）！」

- ・ままごとの皿やフォークを使い、紙テープを指でちぎりながら水と混ぜ合わせる。

「どうやって作るの？」

「教えてあげるね。」と教え合う。

「ベトベトする～」「のりみた～い」

「なんで溶けるんだろう？」

感じたことを言葉で伝え合い楽しむ。
紙テープも色々混ぜて楽しんでいたら、
すごい色になった！「なんでだろう？」の
気づきがたくさんまれる。



ベタベタになるね♪

「(できた色水を) 入れ物に入れたいね」

「ぽってぽとろある(ペットボトル)？」

みんなで話し合いをして考えを伝え合う。

「明日おうちから持ってくるといいんじゃない？」 「いいね！」

【2日目】

次の日・・・

「先生、ペットボトル持ってきたよ～！」

直接ペットボトルに紙テープを入れて

振ってみたら・・・「できた！！」

友達に教えたり、聞いたり、真似したりする。

振ってもできるよ♪
僕が発見したよ！



○子どものやってみたい！思いに寄り添う。

●一緒に必要な用具や材料を準備する。

○やり方がわからない時に教え合う場を作る。考え、やってみる経験ができるよう関わる。

○「違う紙テープも入れてみたらどうなるかな？」さらに試したり考える声がけをする。

☆ぽってぽとろ?! ペットボトルのことか(笑)

●園にはなかったのどうするか話し合いの場面を作る。

☆次の日、おうちの人に話をして持ってきた！嬉しいな♥

○「すごい！大発見！」昨日はフォークでつぶしたけど。子どもの心に寄り添い声がけをする。

一色だけの色水に違う色を混ぜてみることで、色の変化を楽しんだ。同じピンク色だったのに、少しずつ色が変わり、友達と比べて、混色にも関心が高まった。混色による色の変化や光の反射への関心を持つ。さらに、今年度のいちご組（5歳児）の「いろみず研究所」でやっていたマーカーでの色水作りに関心を持ったことがきっかけとなり、自分達も真似をしてやってみる。

「年長さんがやっていたマーカーの色水作りやってみたい！」すると、「先生、見て！ここ（横）から見るとぶどう色、ここ（上）から見ると抹茶色！」とA子が発見！！

自分たちの発見を伝えたくなった子ども達は「小さい子にも見せたい！」と、みんなが見られる場所を考えた。「玄関は?!」とアイデアを出し、さっそく置いてみた。園長先生にもみせてこよう！



この入れ物はできた！



【魔法の色水ができるのは?!】

- 1、円柱の瓶……できた 
- 2、違う形のペットボトル……できた
- 3、浅型の入れ物……魔法にならない 

「（魔法の色水できるから）ペットボトルに入れた方がいい」

「1つじゃなく、いっぱいの色を入れたらできるよ」

「こういふ風に染めるとできるよ（カップに何色も描いて水を入れる）」

自分の発見や気づきをみんなで教え合う。

真似をしながら自分の作りたいオリジナル「魔法の色水作り」は翌日も続いた。

「ママに見せたい!」「おうちに持って帰りたい!」

家に持ち帰ったり、家で作って持参する子が増えた。

●周りの子にも知らせ関心を向ける。

○「どうやって作ったの?」「なんでだろうね」「魔法の色水みたい!」と声をかける。

●子どもの思いに寄り添い掲示する場を設ける。

○「別の入れ物だとどう?」と投げかける。

●試せるよう形の違う容器を準備する（高さの違う円柱の入れ物、形の違う（容量同じ）ペットボトル）

☆心を揺り動かす実体験から「伝えたい!」意欲が育まれている。

◆考察◆

昨年の5歳児がしていた色水遊びを見ていた子ども達。「おもしろそう!やってみたい!」という思いが今年の遊びにつながった。材料や用具を変えて色水を作ったことは、探究心が芽生え、様々な気づきや工夫をして楽しむ姿につながった。さらに、色水作りの発見や驚きから、「伝えたい!」という表現する力も育まれた。

やりたいことを実現させるため、クラスで話し合ったり、教え合いや、保護者に伝えようとする4歳児の意欲的な姿が見られた。5歳児と関わり、色水作りを楽しんだことは、真似たり、教えてもらうことで、5歳児への憧れの気持ちを抱き、遊びをつなぐことができた。

保育者は、考えたり、工夫し、「やってみたい!」経験がたっぷりできるよう関わり、子どもの驚きや喜びを共感した。また、園庭のヨモギや花での色水作りにもより関心が深まるよう、気づかせる援助や環境構成をおこない、楽しむことができた。

～その2～ いちご組 「いろみずけんきゅうじょ！」

対象児 平成29年4月～ 5歳児

〈子どもの姿〉 科学する心につながると考える姿を赤で示す

保育者の ○援助●環境構成☆気づき

【4月27日】

「色水を作りたい！」とやってみたい気持ちを伝えてくる。
用具をそろえ、カップに色を染め、水を入れて色水を作り始めた。
ところが！一緒にしていた3歳児がマーカーを水に入れてしまい・・・
「大変！マーカーが描けなくなった！」

「マーカーがぬれないように、カップの水をちゃんと拭いてから染めないとダメだよ」

これまでの経験からわかったことを教え合う。
違う色水を作るときはちゃんとカップの水を拭く約束ができた。

できた色水は並べてお片付け・・・すると、

「あっ！色が映ってる！」

「光が当たってるからかな？」

気づきや考えた事を言葉で伝え合う。



○作り方や必要な材料、用具について尋ねる。

●一緒にカップ・ペットボトル・マーカーを準備する。

●担任以外の職員が場面を見取り対応してくれた。

●子どもの言葉からティッシュペーパーを置いたり机を増やし広くする。

☆その後マーカーをぬらすことはなくなったね。

●保育者も昨年の経験から色水の置き場所を考察する。

○子どもの気づきに共感し、「どうしてだろうね？」と、考えを引き出す声かけをする。

【4月28日】 ～研究所のはじまり！～

「けんきゅうじょ」と、自分達で看板を作り、保育室入り口に貼る。

「いろみず けんきゅうじょ オープン♪」



けんきゅうじょ

【5月1日】 ～混色への関心～

ペットボトルを自ら持参し色水作りを楽しむ。
4歳児も加わり、混色を楽しむ。

「赤と青を混ぜると紫になるんだよね」

【5月2日】 ～あれ?!手が・・・～

色水を楽しむK男とA子が、色水が入ったペットボトルを持った時に発見！

「あれ!?!手の大きさが違うよ!!!」

「先生、見て!ほら!!!」



あれ?

見て!!

☆子どもの心の内から沸き起こる「やってみたい！」が嬉しい。

○子どもの気づきの言葉をキャッチし、色の足し算を提案してみる。

「白と青の色を合わせたら何色になるかな？」

○「研究所だからわかったらすごいね！」と考える姿を認め、さらに意欲につながるよう声かけをする。

発見をクラスみんなに伝える。

より、自分達の発見をわかりやすく伝えるため、実際にわかったことをみんなに見せながら**発表をする工夫**をする。



手を後ろにやると大きく見えます。



顔も大きく見えるよ！

「すご〜い！！」ほかの子ども達も感心して聞き、拍手も起こる！

「お風呂では手が小さくなるんだよ」と、**さらに生活の中での気づきを話す子**もいた。

●発見をクラスで伝える場面を作る。

○クラスで共有し、遊びの深まりへつなげる。

○友達に工夫して伝えようとする姿を認める声がけをする。

☆すごい！友達の発見から自分の気づきを言葉で伝えようとしたことが嬉しい。

色水遊びが、混色への関心、さらに光を通すことや、屈折などの発見や気づきにつながっている。「すごい！」と心を揺り動かされる体験から、友達や保育者に「伝えたい！！」という気持ちが沸き起こり、自ら進んで友達に「話したい！発表したい！」という**意欲**が育まれた。

保育者は、子どもの発見や疑問を感じた心の動きと、言葉をキャッチし、援助や環境構成の工夫をおこない、「やってみよう！」につながるようにし、わくわくドキドキを共有し楽しむ。

身近なものに関心を持ち、わくわくドキドキを感じ、感じたことをみんなで共有しようとする姿は、物事への関心（出会い）から、「科学する心」が育まれていると考える。

子どもの「やってみたい！」**意欲は、次の遊びの広がり、探究する心**につながっている。

【5月10日】 ～色水を凍らせたい！～

色水作りを楽しんでいたK男、S男が

「色水、**凍らせてみたい**・・・」と伝えてくる。

保育者の問いかけに、考え、言葉にして伝え始める。

「おうちに持って帰って凍らせてきたい！」

自分達でやり方を考えたので、迎える保護者に凍らせたいことを言葉で懸命に伝える。

（保護者も快く応えて下さり、子ども達のわくわくドキドキ「やってみたい！」の気持ちをつなげてくださった）

○どんな方法でやりたいか尋ね、一緒に考える。

やりたいことを実現するため、自分で保護者に話すことも促してみる。

○子どもの気持ちを汲み取り、保護者に降園時に伝え、協力をお願いする。

【5月11日】 ～凍らせて発見！～

登園したk男は、話したくて仕方ない表情で伝えてくる。

K男「先生、見て！」

凍らせたら、色がわかれたんだよ！

発見を嬉しそうに教えてくれたK男。

続いて登園したS男も凍らせたペットボトルの容器を保育者に見せながら・・・



○「すごい！大発見！

K男君が凍らせてみたい！ってやってみたからわかったんだよね！」

●二人の気づきを周りの子にも伝える（話し合い・発見ボード）



見て！色が真ん中に集まっているんだよ！

2人で見せ合い、違いを見比べている。
「なんで色が集まるんだろう？」

他児も関心を持ち、真似してやってみたい！
と家に持ち帰る。凍らせて同じように、色が集まることを確かめる。

【5月15日】 ～溶けた氷は・・・?!～



家で色水を凍らせてきたK子が、ペットボ
あれ?!ぬれてる・・・!?朝は
あんまりぬれていなかったのに!
真ん中の色が溶けてきてる!

【5月16日】 ～やってみよう!～

色水が溶ける様子を見ていたH子が、溶けた水をカップに入れはじめた。中心の色のついた氷がどんどん小さくなっていき、透明になることに気づき、色の変化を確かめたいという。

物事への関心(出会い)

わくわくドキドキ!やってみよう!

午前中・・・最初に溶けた水を紙コップに入れてみた



色のついた氷が残った!

降園前・・・さらに溶けた水を紙コップに入れてみた



最初の水と比べてみたら・・・
薄くなってる!!



氷の色が薄くなった・・・

○「どうしてだろうね?」と考えを引き出す声かけをする。

●○水を凍らせると他の物質を押し出そうとする性質をわかりやすく伝え、より興味を持てるようにする。

●子どものやってみようとする姿に保護者が応えて下さったことに感謝する(ネットで親子で調べる・家で凍らせて一緒に思いを共有してくださる)

●子どもの「やってみよう!」心の動きを逃さず、一緒に材料を準備し、確かめる。

●「色水研究所」の発見や気づきを掲示し、保護者にも伝える。保育参観で実際に見ていただける環境を作った。

H子は、自分の気づきをみんなに発表タイムで伝えてくれた。

【5月17日】 ~ほんとかな・・・?~

A子が凍らせた色水を溶かし、H子と同じように試してみる。

「ほんとだ！最初の方が濃い！でも、最初は青い水だけど、次のは紫っぽい・・・」

発見したことを伝えたい！と、発表タイムや発見ボードで伝える。友達の気づきを真似することを楽しむ姿がより広まった。



●気づきや発見をみんなに伝える発表タイムや発見ボードを活かし、クラスで共有できるようにする。☆子どもの気づきや発見がすごい！保育者も「感じる心」を高め勉強しなければいけない・・・。ジュースを凍らせて飲ませ、五感で体験させたい！

物事への関心(出会い)から、さらなる関心の深まり、「やってみよう！」へ

友達の発見や気づきが刺激となり、比べ、観察しようとする姿がより深まった。いちご組「いろみずけんきゅうじょ」には「！」や「？」の発見や気づきが溢れ出し「科学する心」はさらに大きく育まれた！

こっこのペットボトル、太ってる！



あっ！ほんとだ！



下(底)も膨らんでるんだよ！

あれ?!溶けたら下(底)がへこんだ!?



あれ?!朝は上まであったのに、なくなってる!!



押したら上に上がったよ！

探究する心が育まれるように、保育者は子ども達の発見をわかりやすく文字で表示し、クラスで共有！

いちご組 いろみずけんきゅうじょ の もっと!やってみよう!

振ってみて！
泡の音がするよ！



振ってみて！
竜巻ができるよ！



大きく見えるでしょ!?



ここからみると黒い！



ここからみると緑色！

◆考察◆ ～遊びをつなぐ、継続する・・・「つながる力」～

子どもの言葉や心を「感じる心」でキャッチし、実現につなげるため、援助や環境構成をおこなった。また、遊びの中で感じた子どもの気づきや探究する心をクラスだよりや掲示物で発信。保護者の保育への理解につながった。保護者が子どもの「やってみたい！」に寄り添い、「科学する心」がさらに育まれた。

同じ遊びを通して、4歳児、5歳児の発見や気づき、見方や考え方の深まりの違いが見えてきたことは、保育者が今後、遊びや育ちをつなぐ際の援助の工夫につなげると考える。遊びがより充実し、楽しめるよう、教材の研究、提示の仕方について職員で考えていきたい。

年齢の枠を超え、クラスを行き来し4歳児が5歳児の色水作りに触れたことは、憧れを持つことにつながった。また、3歳児も凍らせたり、4・5歳児の掲示物から刺激を受け、真似をする姿が見られたことは「科学する心」が園全体につながったと考える。

◆色水作りを通して育まれた姿を「育ってほしい10の姿」に照らし合わせる◆

- ・協同性・・・友達との関りを通じて互いの思いや考えを共有し、実現に向けて工夫した。
- ・数量・図形、文字等への関心・感覚・・・数えたり、文字で伝えようと書いたりした。
- ・言葉による伝え合い・・・思いを巡らせたことを言葉で表現し友達や保育者と心を通わせる。
- ・思考力の芽生え・・・好奇心や探究心を持ち、環境に積極的に関わった。
- ・豊かな感性と表現・・・心動かす出来事に触れ、感じた事や考えた事を表現し楽しんだ。

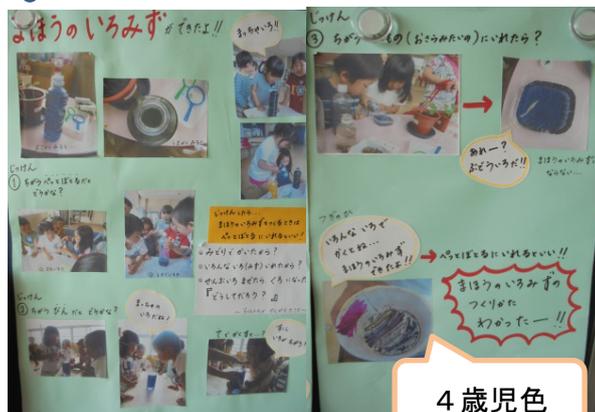
Ⅲ 科学する心をつなげる力

① 掲示物の工夫

子どもの発見や気づきから「科学する心」が育まれていることや、遊びを振り返るための手立てとして園内の掲示物の工夫をおこなっている。掲示物により、子どもの発見や気づきが他のクラスの関心につながっている。保育を可視化し焦点化することは、保育者の保育の振り返り、共有化にもつながる。また、掲示の工夫は、保護者の保育への関心・理解を深めるきっかけになっている。



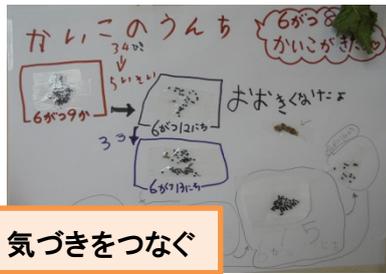
遊びの振り返り・深まりへつなげる





何して遊ぶ♪

遊びをつなぐ



気づきをつなぐ



発見ボード

言葉や文字でつなぐ

保護者へつなげる



本物を置き、より関心を持って頂く



カタツムリの赤ちゃん!



園内の掲示を保護者はもちろん、
祖父母も見て下さる

②情報の発信

科学する心で 園と家庭をつなぐ

子ども達が遊びや体験を通して感じた心や、遊びから育まれる学びの姿を、クラスだよりや園だより、地域回覧で発信し、保育を可視化する。発信の工夫により保護者からの、保育や「科学する心」への関心が高まった。保護者が子どもの「やってみたい！」心に寄り添ってくださることにつながっている。

The newspaper 'なかよし' (Nakayoshi) is dated 5月15日(月) (May 15, Monday). It features several hand-drawn articles and illustrations. One article is titled 'いちごの収穫' (Strawberry Harvest) and another 'おひさまの観察' (Sun Observation). There is a flowchart on the left side with boxes containing text like '何人さんだろ?' (How many people?), '男と女、合わせて何人?' (Men and women, combined, how many?), and 'わかった!' (I got it!). The newspaper is filled with colorful drawings of children and objects, and handwritten text in various fonts.

③ 小学校へ「科学する心」をつなげる

対象児 平成29年 5歳児と1年1組

わくわくドキドキ！1年生とお手紙交換！

～7月12日（水）～

給食で食べたスイカの種をいつものように水に入れ、「**浮く種と沈む種**」を調べる。



～7月13日（木）～

水に入れたスイカの種をどうしたいか保育者は子どもの考えを引き出す。

子「土に蒔く！」

保「どうしてそうしたいの？」

子「だって**土の方が（土に蒔いた方が）早く芽が出るもん！**」

保「蒔き方はどうする？」

子「**浮く種と沈む種、別々に蒔きたい！**」

保「どうして？」

子「**どっちが早く出るか（芽が）比べるから**」

保「どっちが早く出ると思う？」

子「**浮く種が早いと思う！浮いてる種の方が上にあるから（土の上に芽を出しやすい）**」「**沈んだ種の方が早いよ（今までもそっちが早かった）**」

子ども達は蒔きたい種を選び、別々の容器に土を入れて蒔いた。



この日、1年生もスイカの種を水に入れたことを伝えた。

「1年生は種をどうするんだろうね？」と投げかけ、**1年1組のスイカの種への関心の種を蒔く（出会い）**。

～7月18日（火）～

「芽、出た～！！」「**どっちも一緒に出た！**」「**同点だ！**」

比べるために別の容器に蒔いたので、比較し、感じたことを言葉で伝え合っている。するとH子が、「でも、沈んだ種の方がいっぱい出てるよ」と、**芽の数の違いに気づきみんなに伝える。**

「**ほんとだ！**」子どもと一緒に保育者も観察。小さな芽が少し出ている！

「**沈んだ種の方が勝った！**」

「7月12日、みんなと同じ日にスイカの種を水に入れて観察した1年1組のスイカの種はどうした

7月12日夕方、わくわくドキドキする話が舞い込んできた！！同学区内小学校の1年担任の先生が「今日、給食で食べたスイカの種を、子ども達が水に入れたんですよ！」と教えて下さった！

「え～～！！すご～い！！」

保育者もその日のいちご組の子どもの姿を先生に伝え、さらに、「科学する心」をつなぐため話をする。

「幼稚園でもスイカの種をいつものように水に入れたんですよ！先生、これからスイカの種の生長について手紙で伝え合いませんか？」と。

「いいですよ！」と、快く応えて下さった！

やった～～♪

5月に、昨年の5歳児（現1年生）が、4歳児のスイカ作りの経験から試行錯誤し、より赤いスイカを収穫した体験から、「科学する心」や主体性が育まれた姿を先生にお話ししたところ、子どもの（現1年生）「やってみたい！」に寄り添って下さったのだった！

んだらうね？」と、保育者は改めて子ども達に話し、関心をつなげる。

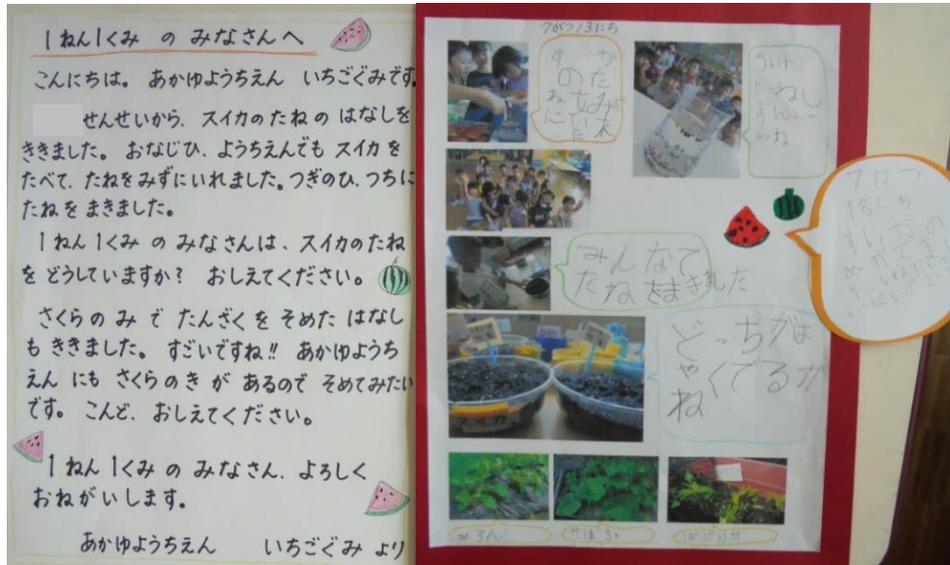
子「知りたいね・・・」

担「どうしたらいいかな？」

子「手紙書いたらいいんじゃない？」「いいね！」「でも、まだ字、書けないよ」「あたし書いてあげる！」

文字を書ける子数名が代表で書いてくれることになった。

準備しておいた写真を見て振り返りながら書いてくれた。出来たものをみんなで共有し、担任が小学校へ届けた。



その後、1年1組の担任より連絡があり、子ども達から「スイカの種も教えたいけど、カルタ（手作り）も貸してあげたいね」という話が出たとのこと！

そして・・・1年1組から、待ちに待った、お返事が届いた！！早速読んでみると・・・



スイカの種を蒔いた話と、桜の実で「染め物」をしたことも教えてくれた。担任が読み聞かせると、子ども達は「(今は)桜はないけど、スモモはあるよ(幼稚園に)！」とひらめく！担任が「やってみる？」と尋ねると「うん！」と言い、園庭のスモモの木に走りだした！スモモを拾い集め、色や大きさの違いに気づき「硬いね」「少し青いけどいいかな？」と伝え合う。スモモの数を試行錯誤しながら数えた結果、集めたスモモは47個！保育室に持ち帰り、1年1組に教えてもらった方法で染め物に挑戦！スイカの観察や様々な食べ物の皮の染め物を通し、意欲や探究心は深まっている！

2学期、スイカの生長や染め物について手紙を通して伝え合い、科学する心をつないでいきたい。

◆考察◆

子どもが、物事に関心（出会い）を持ち、「やってみたい！」と環境に主体的に関わり、遊びを通して育まれた「科学する心」を、園から丁寧に伝えた。伝えた事で、小学校教員が本園での環境を通しておこなう「科学する心」を育む保育と、心揺り動かされた実体験から育まれた子ども達の「感じた心」について関心を持ってくださった。小学校教員が子どもの（現1年生）心の動きに寄り添い、幼児教育にも理解を示してくださったことは、「育ちと学びをつなぐ」ことへ、大きな一歩を共に踏み出すことができた。

同じ日にスイカの種を水に入れたという思いがけない偶然から、1年1組と5歳児がつながり、スイカの種の生長や、体験から沸き起こる「伝えたい」思いを、手紙を通して伝え合い、1年生と5歳児、それぞれの見方や考え方に触れることができた。

小さな種は、接続という芽を育み、幼児教育と小学校教育をつなぎ始めた。子どもはもちろんだが、小学校教員と保育者がわくわくを共有できていることが、とても嬉しく思う。今後も、スモモの色染めや、スイカの種の生長について伝え合うと共に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について共有化し、「育ちと学びをつなぐ」ことについて積極的にアプローチをしていきたい。

◆1年生との活動を「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に照らし合わせる◆

- ・健康な心と体・・・小さな種を通し、食べ物や食することへの関心が深まった。
- ・自立心・・・環境に関わり活動や遊びを生み出し、考えたり工夫して取り組む。
- ・協同性・・・互いの思いや考えを共有し、実現に向けて工夫したり、協力したりする。
- ・社会生活との関わり・・・1年生との関わりの中で、親しみを持つ。
- ・数量・図形、文字等への関心・感覚・・・数えたり、文字を使って伝える。
- ・自然との関わり・・・身近な動植物を大切にすることの気持ちを持つ。

IV 科学する心を育む今後へのアプローチについて

～2016年度 論文より 実践の報告～

① 保育者の意識の高まりについて

写真や遊びの様子を付箋紙に書き、「育みたい資質・能力」に照らし合わせ、話し合いを行う。遊びこみ、試行錯誤することが深い学びにつながることや、継続した遊びが思考の深まりを育むことがわかった。「科学する心」から自主性や思いやりの心が生まれ、学びの意欲の土台が育まれていることを改めて確認。話し合いの工夫により保育者の視点の共有化、遊びの見取りの意識の高まりにつながっている。



② 実体験から思いやりの心と感性を育む

・玄関前飼育コーナーや、各保育室で飼育をおこない、自分達と生き物が共生する環境を作り、命に触れる機会を作る。生き物の誕生や死、病気に出会うことから、命を大切に、他人や自身を大切にする思いやりの心が育まれている。



・栽培物の世話や観察を通し、わかったことや気づいたことを言葉や様々な表現方法で伝えることを大切にすることで、子どもの主体的な姿や探究心が育まれている。

・生活や遊びの意欲的な姿は、健康な心と体が土台。匂いが園内に漂う出来立ての給食（笑顔と心が通い合う給食）や、年間計画的な「心と体を育てる食育活動」を通し、「食べる意欲・健康な心と体・感謝する心」が育まれている。



③ 情報の発信による効果

園だより・地域回覧・ぱくぱくだより（食育だより）・ランチだより（給食献立のレシピや、食材の情報）・クラスだよりを、楽しみながら積極的に発信している。園生活での姿はもちろん、子どもの興味関心や「科学する心」から育まれる力について伝えるよう心がけ、伝え方を工夫している。保護者はもちろん、地域の方からの保育理解にもつながっていることを感じている。

④ 「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携について探る

園で子どもが体験した「科学する心」を保育参観や話し合いで伝え続けてきたことが、少しずつ成果となり感じるようになってきている。今年度は、保育参観や話し合いの工夫を積極的に行っている（小中学校教員に遊びの姿を写真に撮って頂き、資質・能力に照らし合わせ、見取りの視点の相違を知り、保育に活かす）。



V 29年度 実践の成果と課題

- 遊びを見取る視点があることで、保育者の共通理解や見取りを深めることにつながっている。子どもの実態を、幼児期の終わりまでに育ててほしい資質、能力に照らし合わせ話し合い、子どもが環境に主体的に関わる姿から「科学する心」が育まれることを感じるようになった。「科学する心」を育む保育を継続してきたことで、園全体の子どもたちの意欲や探究する心がより大きく育まれていると思う。
- 実践から、環境を通して行う保育の重要性を改めて考え、今後、「科学する心」を育むための環境構成について、ソニー幼児教育支援プログラム実践事例集を活用しながら、職員で探っていきたい。
- 遊びをつなぐことで見えた成果と、つなぐことの難しさも感じている。考えを引き出す声かけや、教材の提示のタイミング、クラスや園全体へ広げる環境構成の工夫などである。子どもが何を感じ、学ぼうとしているかを読み取り、先を見通した援助や環境構成について探っていきたい。
- 保育者の意識を高めることが保育の質の向上につながると信じ、互いの保育観についても話し合える職場環境作りに努めている。科学する心に触れ3年目・・・職員の意識の高まり、子どもの感性の高まりを少しずつではあるが感じている。今後も現状に留まることなく、高め合える職場でありたい。
- 保育の中での様々な「つなぐ」を意識し、実践や振り返りをおこなった。子どもの姿から先を見通した援助や環境構成は、ともすれば保育者主導でルールを引きがちだが、保育者は、子どもの力を引き出す educator であることを意識していきたい。
- 1年1組と、スイカの種を通してつながることができ、小学校教員と互いの教育観、保育観について話し合う場面を持つことができた。“スイカの種”という、共有できるキーワードを持ったことで、スイカの生長や、考え、工夫する思考の比較にもつながり、互いの「科学する心」と「育ちと学び」をつなぐことに迫ることができたと考え、今後もアプローチしていきたい。

VI 「科学する心」を育むために・・・

今後へのアプローチ



子どもに負けない保育者の感性を高め、質の高い保育のために

- ① ソニー幼児教育支援プログラム実践事例集を参考にし、環境構成の見直しをおこなう。
- ② 遊びを見取る視点を参考に、遊びを多角的に見取りながら援助（言葉かけ）について深める。
- ③ 子どもと共に、保育者もわくわくドキドキを共有し、保育を楽しむ。
- ④ 実体験を通して子どもの主体性や思いやりの心を育む。
 - ア) 飼育や栽培から沸き起こる「どうして?」「そうだ!」「わかった!」の気持ちを大切に、「科学する心」を育む。
 - イ) 飼育することの責任や命の大切さに触れ、他者や自身を大切にする心を育む。
 - ウ) 「健康な心と体を育てる食育活動」を通して、笑顔で食べる心から生活の意欲へつなげる。
 - エ) 郷土食作り、地域行事、栽培活動を通して地域とつながり、人や地域の持つ力に触れる。

教育課程の見直しをおこなう

- ① 遊びを通して育まれた姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に照らし合わせて検討する。さらに、子ども達の「どうして?」「こうしよう!」と感じる心から、環境に主体的に関わり実現しようとする「やってみたい!」の意欲につなげる援助や環境構成について探る。
- ② 「育ちと学び」をつなぐため、5歳児はもちろん、土台となる3歳児・4歳児の教育課程の具体的な見直しをおこなう。

情報発信の工夫の継続

- ① 子ども達の発見や気づき、園での実体験から学んでいる姿について、クラスだよりや地域回覧で発信し、保育を可視化し、「科学する心」を育てることへの理解と協力を得る。また、保護者や地域からの情報を子ども達に返し、外部からの刺激を保育に積極的に活用する。
- ② 遊びの広がりや深まりにつなげる、掲示の工夫をおこなう。

「育ちと学びをつなぐ」ことにアプローチ・・・「科学する心」をつなぐ

- ① 小学校と「幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共有化し、育ちと学びをつなぐ。
- ② 「科学する心」から育まれた探究心や主体性、思いやりの心を伝える。
- ③ 幼児教育における子どもの学びの姿を、具体的に、丁寧に小学校に知らせ、互いに歩み寄ってけるように努める（授業参観・保育参観・話し合いの工夫など）。
- ④ 生活科、総合的な学習の時間など、探究的な学びを目指す研究会に参加し、小学校教員と交流し、互いの教育観・保育観に触れ学び合う。

VI おわりに

様々な分野でデジタルの時代になり、わからないことがあれば、指一本で効率良く答えが導き出される（私自身、そうである・・・）便利な世の中。

そんな便利な世の中であるが、アナログな保育に魅力を感じる。

「どうして？」と疑問に思い、図鑑に頭を寄せ合いながら調べ・・・「わかった！」を感じ満足したり、「この図鑑には書いてない・・・」とがっかりしながらも、次の図鑑に手を伸ばし、さらに調べようとする。

予想通りにいかない、「大成功じゃない・・・ちょっと失敗」の体験から、試行錯誤を繰り返し、実現のため、さらに挑戦したり思考を積み重ねる。

継続した遊びから生まれる「そうだ!」「どうして?」「こうしよう!」「もっと!」の気持ちは、遊びの原動力であり、「科学する心」の芽生えと感じている。

私達保育者は、この過程を大切に見取り、子どもの心に寄り添い、遊びや思いをつなげていきたいと考える。遊びを「つなぐ」ことの難しさを感じながらも、前へ進もうと日々研鑽を重ねていきたい。

“ソニー幼児教育支援プログラム 「科学する心」を育てる” に出会い3年。

今、子ども達の「科学する心」が育まれていることはもちろん、保護者や地域、小学校とも「科学する心」を通して、より深くつながりはじめている。「科学する心」を通して多くの人との出会いから、たくさんの刺激を受け、学び、感じさせていただいていることを実感している。

本園、29年度保育のテーマは・・・「全員保育、チームワークで、やってみよう!」

一人一人の保育への情熱と、職員のチームワーク!

目の前の子どもへの愛情と子どもの未来を見通した感性を持ち、わくわくドキドキをたっぷり感じ保育を楽しむことから、子ども達の学びに負けない、保育者の「感じる心」と「力量」を向上していきたいと考える。

いのち輝く子ども達の、未来を拓く質の高い保育を目指して。

研究代表・執筆氏名

須貝 智美